

1人1台端末の活用で悩んでいませんか ～「動画でまとめる」を提案します～

1人1台端末を授業等で活用する場面が増えてきていますが、ICT 活用で悩んでいる先生もいるのではないのでしょうか。最初は色々とチャレンジして活用していた先生も、いつの間にか ICT を活用する機会が少なくなったり、同じアプリの活用だけになってしまっているということがあるのではないのでしょうか。

MナビTV情報教育チャンネル「はじめよう!授業 DX～動画でまとめてみよう～」では、児童生徒の学びを深める方法として、「学びを動画でまとめる」という提案をしています。

授業内で全員に発表時間を確保することは難しい、グループで発表させたとしても1人1人の評価をしにくかったり、ワークやテストの問題に答えられればわかっただけで点数化してしまったり、児童生徒の学びが深まったということがわかりづらかったのではないのでしょうか。児童生徒が「学びを動画でまとめる」ことで、

- ・全員に発表の機会を作られる
- ・1人1人の評価がしやすくなる

そして、学びが自分のものになっていないと、動画を作ることができないため、児童生徒は動画を作る過程で学んだ内容を整理し、まとめることになります。さらに、自己評価や他者評価をすることでもっと良い動画を作りたい、こんな風にすれば良かったのかという機会を作ることができます。

詳細は、MナビTV情報教育チャンネル「はじめよう!授業 DX～動画でまとめてみよう～」をご覧ください。



「はじめよう!授業 DX～動画でまとめてみよう～」▶
(二次元コード)

なぜ、学びを動画でまとめさせるのか。	
これまでの授業の課題	「動画でまとめる」で解決・改善
授業内では全員の発表時間の確保は困難。	全員に発表の機会を作れる。
グループで発表すると1人1人の評価がしにくい。	1人1人が作るので、1人1人の評価ができる。
問題に答えられれば「わかった」。	本当にわかっていないと動画にできない、決められた答えはない。
動画にまとめることは、手段であり、目的は学びを深め、評価の改善等に繋げること。	

MナビTV情報教育チャンネル
「はじめよう!授業 DX～動画でまとめてみよう～」

リーディング DX スクール実践事例集で校内研修!!

令和6年8月7日、文部科学省のリーディング DX スクール事業で実施された教育実践動画 36 本が公開されました。GIGA スクールの標準仕様に基づくソフトウェアやクラウド環境を活用した先進的な取組、児童生徒の情報活用能力の向上、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実、校務 DX の推進など、さまざまな事例が短時間でまとめられており、宮城県の実践動画では、

- ・宮城県仙台第三高等学校
- ・岩沼市立岩沼小学校

が公開されています。校内研修で視聴してみてもいいでしょうか。

全員で同じ動画を視聴しても良いですし、それぞれで興味のある動画を視聴しても良いでしょう。大切なことは、視聴した動画について感想を共有したり省察したりすることです。クラウドツールを活用し、共有することで参加した方の全ての感想を共有することも手軽にできます。ぜひ、お試しください。



リーディング DX スクール実践事例集 (令和5年度)
文部科学省/mextchannel

実践事例紹介 みやプロGo!を使った授業実践 櫻井 大志 先生

総合教育センターの令和5年度長期研修成果物『プログラミング教育パッケージ「みやプロ Go!」』を活用した授業実践例を紹介します。



「みやプロ Go!」
ホームページ

学校名	名取市立第二中学校	教科、領域	数学(中学校第1学年)
概要	<p>・主な学習活動 ★活動の留意点</p> <p>単元名:正負の数(本時26/27時間)</p> <p>本時は、正負の数を学んで変容した自分の数学的な見方・考え方を、他者に対して的確に伝えることを目標としている。他者に伝えるために、どのように正負の数を捉え伝えるのか試行錯誤させ、プログラミング的思考の「分解」、「組合せ」、「評価・改善」の思考を働かせる場面を意図的に作った。</p> <p>【導入】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標と関連付け、プログラミング的思考の5つの思考について振り返る。 ・事前に作成したレポートを基に miyagiTouch を活用し、発表の段取りを考える時間を設ける。 <p><分解、組合せ></p> <p>★段取りを考える時間に「分解」と「組合せ」の思考を基に声掛けし、生徒が段取りを考えて発表に臨めるようにする。</p> <p>【展開】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2、3人のグループになる。 ・発表者は制限時間2分の中で、他者に伝える活動をする。 ・聞き手は発表に対してのアドバイスをする。 ・発表者はアドバイスを基に自身の意図通りに発表内容が伝わったかどうか検討し、発表の段取りを再考する。<評価・改善> ・グループ内の発表後、任意のペアを作り、再考した段取りで発表活動をする。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="434 1068 828 1364" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="849 1068 1315 1364" data-label="Image"> </div> </div> <p>【写真1】伝える活動の様子</p> <p>【写真2】発表レポートの画像</p> <p>【終末】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Google スプレッドシートで作成した「学びの共有シート」に活動を通しての振り返りを入力する。 ★振り返りに入力された内容を全体で共有し、どのような内容が生徒の中に残ったのか確認する。 		
使用機材 ソフトウェア	生徒使用端末:iPad 使用したアプリケーション等:miyagiTouch Google スプレッドシート		
先生方へ	<p>本時の学習では、プログラミング的思考の中の「分解」、「評価・改善」の思考を取り入れ、正負の数を学んで変容した自分の数学的な見方・考え方を、他者に対して的確に伝える活動をしました。中学校はプログラミング的思考の体系表例において、Stage3にあたります。「分解」を例にあげると、「目的に応じて、適切に・・・」という段階の思考に至ることが目標となっています。実際に生徒に活動させたところ、「他者に伝える」という目的は明確になっていた一方で、「適切に分解する」というところまでは、まだまだほど遠いものでした。プログラミング的思考は繰り返し働かせることで、高次に育つとされています。私自身も、今回の活動を1つの章が終わるごとに行う予定です。プログラミング的思考の育成を図る際には、ぜひ体系表例を参考にいただければ幸いです。</p>		

編集後記

今回のMナビ新聞 30号はいかがでしたか。校内研修ができる記事を掲載しました。夏休みが終わり、授業計画をする際のきっかけづくりにご覧いただければ幸いです。 【第30号担当:情報教育班 千坂】